

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 創立 30 周年 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

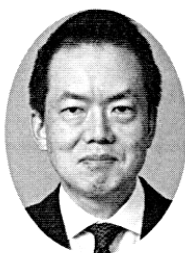
祝 辞^{*}

Congratulatory address

祝辞

田中 哲也

経済産業省大臣官房審議官



今般、品質工学会が創立 30 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が依然として収束を見せない中、日本社会が直面する課題は、カーボンニュートラル社会の実現、経済安全保障の確保等、複雑化・多様化の一途を辿っています。こうした変化に対応すべく、品質工学という学問領域は、デジタル化の進展により実現した高度なシミュレーション技術や機能の評価技術を取り入れることで、その対象を最終製品の評価という下流の段階から、研究・技術開発・設計といった源流・上流の段階まで拡大し、内容を進化させてこられました。この間の関係者の皆様のご努力には、心からの敬意を表するものであります。

政府としても、こうした社会課題を克服し、国としての成長を実現していくため、イノベーション政策に邁進しております。グリーン、デジタル、AI、量子、バイオのような有望分野の技術を磨き上げるための研究開発支援に取り組むとともに、標準化活動のような、開発された技術を社会実装していくための取組にも力を入れているところです。われわれのこうした取組は、品質工学会が目指す「社会に必要とされている「価値」を見極め、その実現のために必要となる技術・製品・サービスを先取りして特定し、最小限の社会コスト（金銭負担、環境負荷等）でこれらを具体化する価値創造活動」に通じるものがあると感じております。学会創設 30 周年を契機として、これからの時代の求めに応じる学問領域と

して、品質工学が更なる飛躍を遂げることを期待しております。

最後になりますが、品質工学会の益々のご発展を心より祈念させていただきまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

品質工学会創立 30 周年への
祝辞

朝日 弘

一般財団法人日本規格協会
理事長

品質工学会が創立 30 周年を迎えられましたことを心よりお祝いを申し上げます。

品質工学会におかれましては、1993 年に「品質工学会」の前身である「品質工学フォーラム」が日本規格協会内に設立されて以来、学術団体としての認定、さらには一般社団法人化への移行など、学会としての存在感を高め、益々のご発展を遂げられていることに対し、深く敬意を表します。

今日、技術開発の汎用技術である品質工学は鉱工業分野のみならず医学、薬学、農学など、適用分野・技術領域を拡大し、各分野において大きな成果を示しています。また、社会課題解決の応用も試みられ、その適用可能な分野は更に広がりつつあります。

品質工学会では田口玄一博士が創設した品質工学を学問体系として確立する取組みを継続されるとともに、最近では、学会／組織の枠を超え、（一社）日本品質管理学会との共同研究会、宇宙航空研究開発機構（JAXA）との共同プロジェクトを通じ、品質工学の新領域の拡大に取り組まれるなど、活動の質を進化・発展されてきたものと認識しています。今後も品質工学の有用性が産業界全体に普及・浸透す

* 受付日時順に掲載した。